

Rudolf Steiner:

“Esoterische Betrachtungen  
karmischer Zusammenhänge”, Band 6, GA 240

Die Bedeutung  
der die Erde umgebenden Himmelskörper  
für das Leben des Menschen

アントロポゾフィー協会を再建すべく、1923年の暮れにクリスマス会議を開催したルドルフ・シュタイナーは、翌年1月末から、カルマ論の講演を始めました。これは、彼が1902年の秋にドイツ神智学協会の事務局長になった時に、すでに意図していたテーマだったのです。しかし当時の会員たちには、そのための心の準備ができていませんでした。21年間にわたる活動とクリスマス会議によって、シュタイナーはその準備を整えました。そして1924年、80回以上にわたるカルマ論講演が行われるのですが、今回翻訳した4回の講演は、いわばその序曲、導入の部分にあたります。抽象的なカルマ論ではなく、具体的に、人生においてどのようにカルマが体験できるかが語られています。それは特に人と人との出会いにおいて明らかになります。ここでシュタイナーは、二種類の異なる出会いのあり方について述べています。



ルドルフ・シュタイナー Rudolf Steiner, 1861-1925

最晩年1924年の活動は、81回にも及ぶ講演「カルマ的関連の秘教的考察」に止まらず、全焼したゲーテアヌムの再建にも取り組み、音楽オイリュトミーのための講座をはじめ、治療教育講座、言語オイリュトミー講座、農業講座、さらに労働者のための講座も続けている。またキリスト者共同体の創設や、ヴェレラダなど医薬品の開発にも力を注いだ。本書はドイツ語全集版(第5巻 GA 239)に収められたブレスラウ講演の全訳。

訳者 丹羽敏雄 Toshio Niwa

京都大学理学部において数学を専攻。大学時代、ゲーテに出会い大きな影響を受ける。30代半ばシュタイナーの人智学に出会う。数学の研究・教育の傍ら、オイリュトミーに熟中。人智学をドイツ、イギリスで学ぶ。ゲーテ・シュタイナー的学、バイオグラフィック・ワーク、占星学、カバラを研究。理学博士、津田塾大学名誉教授。2024年逝去。

訳者 浅田 豊 Yutaka Asada

オイリュトミスト、人智学研究者。スイス在住、ゲーテアヌム書店に勤務。シュタイナーの思想、社会論を研究。訳書に、シュタイナー著『二つのメモランダム(覚書き)』『個人と人類を導く霊のはたらき』『ゲーテ的世界観の認識論要綱』『アントロポゾフィー医学の本質』(共訳)など。

ルドルフ・シュタイナー 講演集

[カルマ的関連の秘教的考察]



ルドルフ・シュタイナー

# 太陽の門と月の門

ベルン、チューリヒ、シュトゥットガルトにおける4回の講演  
(1924.1.25-4.16)

丹羽敏雄・浅田 豊 訳・解説

人は、コスモスの中で初めて出会う一人の人間を通して、より深く世界の中を見つめます。一人の人間に初めて出くわす事は一つの幸運でもあるのです。そして人が初めて出くわす一人の人間を通して、世界をよりよく知るといふこの事実は、翻って繊細な感情として発達しなければならないのです。秘儀参加者がカルマ的に結びついておらず、いわば宇宙の中で初めて対面することになる一人の人間に出くわすと、彼は直ちに、この人間に対して一つの課題を持ちます。彼はすぐに、アンゲロイの天球からの守護霊、つまり、特にこの人間を守護しつつ向かい合っている守護霊と結びつくという課題を持ちます。……  
……彼は、この人間のアンゲロスの言葉を彼の内面に聞き取ります。このことは、秘儀参加者に、彼のこの人間との交際の中にある種々の特性を与えます。彼は自ら、彼が知り合う人間にアンゲロスが言おうとすることのいくつかを受け取ります。彼はその人のアンゲロスに変容するのです。(本文より)

新刊書 2025年5月5日発行

A5版フランス装 本文160頁

ISBN978-4-903865-58-4

定価2970円(本体価格2700円+税)

## ●講演の概略

- 講演1 人間は現在を、直接的な自然環境のみならず、過去の地上生にも負っている／月とは何か／太陽の門と月の門、等
- 講演2 クリスマス会議で生まれた新しい衝動／人類の歴史的発展と実践的カルマへの問い／古代の、父と子と聖霊の秘儀、等
- 講演3 太陽の門／2人の人間の出会い／カルマ的に結びついていない人間の出会い／クリスマス会議から流れ出る衝動、等
- 講演4 月の地球からの分離と月の霊の本性たち／人類の太古の叡智／運命としての人との出会い／過去とは関わらない、もうひとつのタイプの出会い、等